

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
麻生建築&デザイン専門学校		平成9年11月26日		竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南1-11-13 (電話) 092-415-2292																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町 3-83 (電話) 0948-25-5999																							
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																						
工業	工業専門課程	建築工学科				平成25年文部科学省告示第3号	—																						
学科の目的	卒業後、1級建築士、2級建築士を目指し、住宅・店舗・オフィス・ホテル・公共施設などの各種建築物の計画、設計、法規、構造、インテリア及び施工のプロセスなどの専門知識を学び、さらにCADなどパソコン活用技術を体得することを主な目的とする。																												
認定年月日	平成26年3月31日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
	3年 昼間	2730時間	1680時間	1350時間	-	-	-																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																								
120人	229人	2人	6人	23人	29人																								
学期制度	■前期: 4月1日~8月31日 ■後期: 9月1日~3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 5段階評価、3分の2以上の出席が必要																							
長期休み	■学年始: 4月1日~4月8日 ■夏季: 8月7日~9月3日 ■冬季: 12月24日~1月8日 ■学年末: 2月1日~3月31日				卒業・進級条件	単位を取得していること 卒業基準検定を取得している 学年の出席率が90%以上 学生としてふさわしい生活態度																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 各種検定対策補講(希望者)、数学ゼミ(希望者)、BIMゼミ(希望者)				課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有																							
就職等の状況	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 建設業				主な学修成果(資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)																							
	■就職指導内容 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級建築士受験資格</td> <td>②</td> <td>42人</td> <td>42人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級建築士受験資格	②	42人	42人												
	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																									
2級建築士受験資格	②	42人	42人																										
■卒業者数 : 42 人 ■就職希望者数 : 22 人 ■就職者数 : 22 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 52.4 % ■その他 ・進学者数: 19人 (平成 28 年度卒業者に関する平成29年5月1日 時点の情報)				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 第3回マロニエ学生BIM設計コンペティション: 入選1名																									
中途退学の現状	■中途退学者 7 名 ■中退率 3.8 % 平成28年4月1日時点において、在学者182名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者175名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、健康問題、経済的な問題 ■中退防止・中退者支援のための取組 ガイダンス カウンセリング 学生・保護者・担任での三者面談																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 ・東日本大震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																												
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																												
当該学科のホームページURL	http://www.asoiuku.ac.jp/act/subject/archie/																												

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。
また、広く建築業界の動向や求められる知識レベルを把握するためお客様アンケートを実施し、現場の求めるニーズを確実に捉え、本校の授業内容やカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

第1回委員会にてカリキュラムに関する意見収集を行い、学内のカリキュラム編成会議の際に取り入れる。その後、第2回会議にて決定してカリキュラムの報告を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
及川 雅史	株式会社 テクノプロ・コンストラクション 労政課長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	③
戸田 康仁郎	株式会社 大設計 総務部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	③
横山 猛	株式会社 九州三田技術コンサルタンツ センター長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	③
高木 秀樹	株式会社 住まいえ 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	③
高崎 強	株式会社 久米設計 九州支社 副支社長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	③
照井 善明	NPO FUKUOKA デザインリーグ 理事	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	①
太田 昌幸	愛知産業大学 准教授	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	②
竹口 伸一郎	麻生建築&デザイン専門学校 校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
熊野 学	麻生建築&デザイン専門学校 校長代行	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
今泉 清太	麻生建築&デザイン専門学校 主任	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
徳田 美穂子	麻生建築&デザイン専門学校 教員	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
原 将史	麻生建築&デザイン専門学校 教員	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回、開催時期は7月初旬、11月下旬を予定

(開催日時)

平成28年度 第1回 平成28年 7月 1日 16:05～17:45

平成28年度 第2回 平成28年11月24日 15:30～17:10

平成29年度 第1回 平成29年 6月30日 17:00～18:30

平成29年度 第2回 平成29年11月24日 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

BIMを中心とした、建築カリキュラムの横断的な連携プログラムの構築を築いていく。建物に関する構造や施工方法など、従来の2次元から3次元での図面を活用することでより理解を深める授業展開を実施。
そのためにも、建築CAD科以外でもノートPC持参形を取り入れた授業により、時間や場所の限定せず、学習ができ、将来現地で現場での活用が期待できる内容となる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等とのヒアリング及びお客様アンケートの情報に基づき、将来技術者(建築士など)として活躍するために、学んだ知識やCAD等の技術、コミュニケーション能力等の実務適応能力の確認をおこなうことを目的とする。
現場で活かされる実習を通して、必要な創造力や発想力を養っていく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

建築図学において、立体・空間の作図の演習を通して空間把握能力を養う。

企業実務担当者による実務案件をモデルケースとし、活用頻度の多い場面を想定した課題選定の提案や指示・助言による課題設定を行う。また、習得スキルの各段階(基礎/応用)を設定し、パース作図の描画手法の学習段階を設計・評価していただいている。
企業担当者が業務の要点をまとめたもの(オリジナルテキスト)を教材とし、「建築図学Ⅰ、Ⅱ」の授業運営に参画。授業課題の評価にも企業の担当を中心とし総合的に行っている。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
建築図学Ⅰ	テキストを熟読し、建築を表現する手法を表現する。手法について知識を広く得る。	石原パース
建築図学Ⅱ	自分の意図した空間・形態を的確に表現する。手法を実際の建築物を参照しながら習得する。	石原パース

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という)の基本方針

「職員研修規程」に基づき計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

教職員に対し、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

BIM(ArchiCAD)トレーニングプログラム研修(レベル:JUMP2)

2016年8月3日 グラフィソフトジャパン株式会社 主催

内容:3次元オブジェクト指向の建築向けCADに関する研修(JUMP 2は詳細BIMモデル作成)授業指導を想定した検討提案の活用のために参加

3DCAD授業担当専任教員1名が参加

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「ID(インストラクショナルデザイン) I
 講師:岡村 慎一氏(専門学校YICグループ)
 目的:インストラクショナルデザインを用いた体系的なカリキュラム、シラバスの開発方法を習得する。
 内容:インストラクショナルデザインの概要、学習目標の明確化、効果測定と評価。
 日程:2016年9月7日 9:00~17:30

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

LumionForum2017“春”福岡会場 Lumionコンペ2017 および Lumion7.3 リリース発表会
 2017年5月10日 有限会社リビングCG 主催
 内容:建築に特化した動画・静止画レンダリング技術に関する最新情報の修得

BIM(ArchiCAD)トレーニングプログラム研修 (レベル:JUMP3)
 2018年3月(※計画) グラフィソフトジャパン株式会社 主催
 内容:建築向け3次元CADに関する研修、JUMP 3はワークフロー・ホットリンクなど授業導入の可能性検討、
 および授業教材の活用教材の検討目的とする

ARCHICAD BIM TECHNICAL DEMO DAY
 2017年2月28日 グラフィソフトジャパン株式会社 主催
 内容:3次元オブジェクト指向の建築向けCAD「ArchiCAD」の全体像と特徴についての理解

ARCHICAD体験セミナー
 2017年8月24日 グラフィソフトジャパン株式会社 主催
 内容:BIMへの移行や運用に関する総合説明、CADユーザーのための体験

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「発達障害の理解について」
 講師:桑原 由美子 (NPO法人 発達障がい者支援 ゆあしっふ 理事長)
 目的:学生面談・学生指導における基本的知識を習得する。
 内容:発達障害とは何かを理解し、学生との関わり方の基本について学ぶ。
 日程:2017年4月26日 16:00~17:30

2017年8月日(※計画)「発達障がい者の対応について」(児童発達支援センターこだま 緒方よしみ園長)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、自己評価の結果を評価しHP等を通して公表する。また、学校関係者評価委員会は、本校の関係者として、保護者・卒業生・地域住民・企業関係者・高等学校関係者・教育に関する有識者で構成する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5)学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援

(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11)国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検評価報告書に基づく評価項目(中項目)は全て適合の判定結果であった。
 その中で、地階の喫煙コーナーと駐輪場の分煙化の促進についての要望があり、喫煙コーナーを換気の良い端隅に移動することで、喫煙者と非喫煙者の混合を防ぐように改善した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
永田 和弘	在校生保護者	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	保護者
森 大之	H28年度卒業生	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	卒業生
川藤 勝治	博多区博多駅南第4区自治会 自治会長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	地域住民
高木 秀樹	株式会社 住まいえ 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
横山 猛	株式会社 九州三田技術コンサルタンツ センター長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
高崎 強	株式会社 久米設計 九州支社 副支社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
戸田 康仁郎	株式会社 大設計 総務部長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
及川 雅史	株式会社 テクノプロ・コンストラクション 労政課長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
三並 恒功	株式会社 PBM 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
上原 淳司	株式会社 ダイキエンジニアリング 人事部長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業関係者
平野 孝幸	福岡県立 福岡工業高等学校 校長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	高等学校関係者
太田 昌宏	愛知産業大学 准教授	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	有識者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ 毎年9月)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等との連携及び協力により、実践的な職業教育の質の向上を推進するため、教育活動及び学校運営の状況について情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校法人の沿革、教育の目標、学則、諸規程
(2)各学科等の教育	学科の教育方針、年次別目標、目標資格、カリキュラム、進級・卒業要件、他
(3)教職員	教員一覧、専任・兼任教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	グローバルシティズンベーシック、インターンシップ、教育課程編成委員会
(5)様々な教育活動・教育環境	学園祭、ボランティア活動、クラブ活動
(6)学生の生活支援	臨床心理士による学生相談室、ハラスメント相談、留学生支援、障がい者支援
(7)学生納付金・修学支援	金額・納付時期、分割納入制度、授業料減免、奨学金、被災地支援
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	インドネシアのBINUS大学、留学生専用学生寮
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

パンフレット、募集要項、学生便覧、Webサイト

[URL:http://www.asojuku.ac.jp/act/](http://www.asojuku.ac.jp/act/)

授業科目等の概要

(工業専門課程 建築工学科) 平成29年度			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			建築設計製図Ⅰ	設計製図の基本の習得する(線・文字の基本的な描き方と建具等の表示記号の理解)木造建物、鉄筋コンクリート造の製図法を習得する。	1前	90	6		○		○	○	○			
○			建築計画Ⅰ	主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。	1前	30	2		○		○		○	○		
○			建築構造力学Ⅰ	「建築力学の基礎概念である力・力のモーメント」「力のつり合いなどの静力学の基礎」「静定構造物の反力・応力の求め方」「トラス構造の解析方法」について学ぶ。	2前	30	2		○		○			○		
○			建築一般構造Ⅰ	木造建築物の構造を理解し、必要な部材名及びその役割を理解し基礎知識を身につける。	1前	30	2		○		○				○	
○			建築材料Ⅰ	建築材料のうち、構造材料である木材料、コンクリート材料の性質について学ぶ。	1後	30	2		○		○				○	
○			建築材料Ⅱ	建築材料のうち、構造材料であるコンクリート材料、金属材料(鋼材)の性質について学ぶ。	2前	30	2		○		○				○	
○			建築施工Ⅰ	請負契約から工事計画・工事管理まで学習する。また、各種工事についての知識を習得する。	1後	30	2		○		○				○	
○			建築法規Ⅰ	基本となる建築基準法を中心に学習し、建築物の設計等を行う際の最低の基準を学ぶ。	1前	30	2		○		○				○	
○			建築設計製図Ⅱ	小規模住宅設計を課題として建築計画と設計製図の基礎を習得する。	1後	90	6		○		○			○		
○			トータルコミュニケーションⅠ	自己表現やプレゼンテーション技法を学ぶ。コミュニケーション技法やプレゼンテーション技法について学ぶ。	1前	30	2		○		○				○	
○			トータルコミュニケーションⅡ	自己表現やプレゼンテーション技法を学ぶ。コミュニケーション技法やプレゼンテーション技法について学ぶ。	1後	30	2		○		○				○	
○			ビジネスマナーⅠ	ビジネスに必要な基本的な知識の習得を目指す。	1前	30	2		○		○				○	
○			ビジネスマナーⅡ	ビジネスに必要な基本的な知識の習得を目指す。	1後	30	2		○		○				○	
○			PC演習(Excel)	Excel2013の基礎知識と基本操作を習得する。情報リテラシーを身につける。	1前	30	2		○		○				○	

(工業専門課程 建築工学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			PC演習 (Word)	Word2010の基礎知識と基本操作を習得する。情報リテラシーを身につける。	1後	30	2	○			○			○	
○			福祉住環境	高齢化社会に対応できる福祉住環境コーディネーターの知識と習得。	1前	30	2	○			○			○	
○			JWCAD I	建築設計について基本的な考え方について学ぶ。 Jw-CADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得。	1前	60	4	○			○			○	
○			JWCAD II	建築設計について基本的な考え方について学ぶ。 Jw-CADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得。	1後	60	4	○			○			○	
○			建築図学 I	テキストを熟読し、建築を表現する手法を表現する。手法について知識を広く得る。	1前	30	2	○			○			○	○
○			建築図学 II	自分の意図した空間・形態を的確に表現する。手法を実際の建築物を参照しながら習得する。	1後	30	2	○			○			○	○
○			GCB I	グローバルシティズンの育成をめざし、感謝心と思いやりをもった人材を養成する。	1前	15	1	○			○		○		
○			GCB II	グローバルシティズンの育成をめざし、ビジョンと志をもった人材を養成する。	1後	15	1	○			○		○		
○			AutoCAD I	AutoCADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得。	2前	60	4	○			○			○	
○			AutoCAD II	AutoCADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得。	2後	60	4	○			○			○	
○			建築計画 II	公共建築のうち教育施設(幼稚園、小中学校等)や外部空間、自然環境と建築の関係等を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			建築計画 III	建築として主に公共建築について学ぶ。特に図書館、美術館、コミュニティセンター等の社会教育施設や少子高齢化社会に向けて医療施設、福祉施設について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○			建築環境工学	建築環境工学の基礎的な知識として、熱、光、空気、音の分野について学習し、知識の習得を行う。	2後	30	2	○			○		○		
○			建築設備	各種建物の特長と建築設備の関わり、空気調和、給排水、衛生、電気等の各種建築設備における基本的な事項と考え方について解説する。	2後	30	2	○			○			○	
○			建築構造力学 II	「静定構造物の応力の求め方」「トラス構造の解析方法」について学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	

(工業専門課程 建築工学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			建築構造力学Ⅲ	不静定構造を対象として、応力度・ひずみ度の算定、材料の性質、許容応力度設計の考え方、断面の性質などについて学び、不静定梁のたわみと断面力算定、たわみ角法および固定法による不静定骨組の断面力算定法などについて学ぶ。	3前	30	2	○			○	○			
○			建築一般構造Ⅱ	鉄筋コンクリート構造の基本的な構造を理解し、その構造形式の特徴について学ぶ。鉄骨構造の構造形式などの特徴や部材の設計方法について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			建築施工Ⅱ	鉄骨造、各種仕上げ工事などに関する要点を習得する。	2後	30	2	○			○			○	
○			建築法規Ⅱ	基本となる建築基準法を中心に学習し、建築物の設計等を行う際の最低の基準を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			建築法規Ⅲ	基本となる建築基準法を中心に学習し、建築物の設計等を行う際の最低の基準を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○			3DCADⅠ	建築設計や建築生産に必要な3次元図面の作成技術を通して、多角的な設計技術などを学ぶ。	3前	60	4	○			○			○	
○			3DCADⅡ	建築設計や建築生産に必要な4次元図面の作成技術を通して、多角的な設計技術などを学ぶ。	3後	60	4	○			○			○	
○			建築設計製図Ⅲ	店舗併用住宅を設計することで、企画・計画・設計の段階、建築物が完成するまでの過程を学習する。	2前	90	6	○			○			○	
○			建築設計製図Ⅳ	特殊建築物（共同住宅など）を課題として、実際の敷地を見学し事例収集などを含めた調査から地域に相応しい建築計画・建築設計のプロセスを学ぶ。	2後	90	6	○			○			○	
○			造形学Ⅰ	建築の構成要素を考えながら、模型等の製作等において美しい形態を造形する。	1前	30	2	○			○			○	
○			造形学Ⅱ	建築の構成要素を考えながら、模型等の製作等において美しい形態を造形する。	1後	30	2	○			○			○	
○			造形学Ⅲ	建物模型や3DCADを使用し、完成度の高いプレゼンモデルを制作する。	2前	30	2	○			○			○	
○			造形学Ⅳ	前期で学んだ知識を、卒業研究発表での表現力をアップさせるため、造形物の撮影やプレゼン力を養成する。	2後	30	2	○			○			○	
○			Photoshop・IllustratorⅠ	IllustratorとPhotoshopの基本操作を習得しPhotoshop、Illustratorを使用して作品を製作する。	2前	30	2	○			○			○	

(工業専門課程 建築工学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Photoshop・Illustrator II	IllustratorとPhotoshopの応用操作を習得し Photoshop、Illustratorを使用して作品を製作する。	2後	30	2		○		○				○
○			一般教養 I	一般常識及びSPI対策を行う。	2後	30	2	○			○				○
○			一般教養 II	一般常識及びSPI対策を行う。	3前	30	2	○			○				○
○			就職実務 I A	就職をするということ、さまざまな雇用形態と働き方、求められる人材像を考えながら仕事について、働くことについて考えていく。	2前	30	2	○			○				○
○			就職実務 I B	就職をするということ、さまざまな雇用形態と働き方、求められる人材像を考えながら仕事について、働くことについて考えていく。	2後	30	2	○			○				○
○			建築計画IV	建築として主に商業施設の計画について学ぶ。特に事務所ビル、劇場・音楽ホール、百貨店・スーパーマーケット、駐車場等について学ぶ。	2後	30	2	○			○				○
○			建築計画V	主に都市デザイン、まちづくり、都市計画制度、都市・都市計画史について学ぶ。	3前	30	2	○			○				○
○			建築施工Ⅲ	建築物の設計図面や仕様書等の設計図書をもとに建築物の各部材の材料とその数量を求める。各材料の単価を把握し建築物の建築工事費の算出方法を学ぶ。	3前	30	2	○			○				○
○			就職実務Ⅱ A	各学生の就職活動の支援。履歴書の書き方や面接の受け方等を、個別にサポートします。	3前	30	2	○			○				○
○			就職実務Ⅱ B	各学生の就職活動の支援。履歴書の書き方や面接の受け方等を、個別にサポートします。	3後	30	2	○			○				○
○			Photoshop・IllustratorⅢ	IllustratorとPhotoshopの応用操作を習得し Photoshop、Illustratorを使用して作品を製作する。	3前	30	2	○			○				○
○			建築士対策(計画)	二級建築士の学科試験の学科Ⅰ(計画)を学ぶ。	3後	30	2	○			○				○
○			建築士対策(法規)	二級建築士の学科試験の学科Ⅱ(法規)を学ぶ。	3後	30	2	○			○				○
○			建築士対策(構造)	二級建築士の学科試験の学科Ⅲ(構造)を学ぶ。	3後	30	2	○			○				○
○			建築士対策(施工)	二級建築士の学科試験の学科Ⅳ(施工)を学ぶ。	3後	30	2	○			○				○

(工業専門課程 建築工学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			建築士対策Ⅰ (製図)	二級建築士の設計製図課題レベルのエスキース・製図能力の習得	3前	60	4		○		○				○
○			建築士対策Ⅱ (製図)	二級建築士の設計製図課題レベルのエスキース・製図能力の習得	3後	60	4		○		○				○
○			インテリアコーディネーション	住宅内装計画の設計・プレゼンテーション技法を学ぶ。	2前	30	2	○			○				○
○			オリエンテーション	挨拶・マナーの重要性を伝え、社会人として必要なことを理解し行動することを目指す。	1前	30	2	○	△		○				○
○			キャリア教育Ⅰ	自分のキャリア像について考える。	2後	30	2	○			○	○			○
		○	キャリア教育Ⅱ (選択)	各学生のキャリア発達を支援し、キャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる。	2後	《30》	《2》	○			○	○			○
		○	キャリア教育Ⅲ (選択)	社会人として必要な心構え・マナーを再確認する。就職意識、社会人としての自覚を持つ。職場で大切な行動を学ぶ。	3前	《30》	《2》	○			○	○			○
		○	キャリア教育Ⅳ (選択)	就職意識、社会人としての自覚を持つ。職場で大切な行動を学び更に、長期のキャリアを視野に入れた教育を行う。	3前	《30》	《2》	○			○	○			○
○			専攻ゼミⅠA	都市空間コース、住宅空間コース、施工管理コースの中から選択可能なゼミ形式授業	3前	60	4	○	△		○				○
○			専攻ゼミⅠB	都市空間コース、住宅空間コース、施工管理コースの中から選択可能なゼミ形式授業	3前	60	4	○	△		○				○
○			専攻ゼミⅡA	都市空間コース、住宅空間コース、施工管理コースの中から選択可能なゼミ形式授業	3後	60	4	○	△		○				○
○			専攻ゼミⅡB	都市空間コース、住宅空間コース、施工管理コースの中から選択可能なゼミ形式授業	3後	60	4	○	△		○				○
○			卒業制作	本校における学びの集大成としてその成果をまとめる。	3後	90	6	△	○		○				○
○			検定対策ゼミA	各種検定対策授業の実施	2前	60	4	○			○				○
		○	検定対策ゼミB (選択)	各種検定対策授業の実施	2後	《30》	《2》	○			○				○

(工業専門課程 建築工学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	数学ゼミⅠA (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるように四則演算及び分数計算・小数の計算を振り返りを行う。	1前	《15》	《1》	○			○			○	
		○	数学ゼミⅠB (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるようにSI単位の理解を行い、単位の計算ができるよう学習する。	1後	《15》	《1》	○			○			○	
		○	数学ゼミⅡA (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるように四則演算及び分数計算・小数の計算を振り返りを行う。	2前	《15》	《1》	○			○			○	
		○	数学ゼミⅡB (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるようにSI単位の理解を行い、単位の計算ができるよう学習する。	2後	《15》	《1》	○			○			○	
		○	数学ゼミⅢA (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるように四則演算及び分数計算・小数の計算を振り返りを行う。	3前	《15》	《1》	○			○			○	
		○	数学ゼミⅢB (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるようにSI単位の理解を行い、単位の計算ができるよう学習する。	3後	《15》	《1》	○			○			○	
		○	BIM専攻ⅠA (選択)	ビルディングインフォメーションモデリング(BIM)についての理解と関係ソフトの基礎的知識及び操作技術の向上。	1前	《15》	《1》		○		○			○	
		○	BIM専攻ⅠB (選択)	BIM手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで、技術の向上を図る。	1後	《15》	《1》		○		○			○	
		○	BIM専攻ⅡA (選択)	BIMについての理解と関係ソフトの基礎的知識及び操作技術の向上。	2前	《15》	《1》		○		○			○	
		○	BIM専攻ⅡB (選択)	BIM手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで、技術の向上を図る。	2後	《15》	《1》		○		○			○	
		○	BIM専攻ⅢA (選択)	BIMについての理解と関係ソフトの基礎的知識及び操作技術の向上。	3前	《15》	《1》		○		○			○	
		○	BIM専攻ⅢB (選択)	BIM手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで、技術の向上を図る。	3後	《15》	《1》		○		○			○	
合計				85科目							2730単位時間			(182単位)	

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
①最終学年の終了時において、履修すべき全授業科目(実習を含む)に合格し、当該学年における単位数を取得していること。②出席率が当該学年の出席時間数の90%以上であること。		1 学年の学期区分	2期
③国土交通省が定めた規定の時間を満たした者。④学生としてふさわしい生活態度であること。上記基準を満たせない者は、他の成績科目、出席状況などを参考に卒業判定会議により判定する。		1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。